

## 奄美市のブースがはにわ祭に登場

今年から交流が始まった鹿児島県奄美市のブースがはにわ祭に登場。ブースを担当した奄美市役所の富啓嗣さんに芝山町の印象をインタビューしました。

—芝山町の印象はいかがですか？

奄美と気温差が10度あるので、とても寒いです。芝山町は飛行機の町、空港の町というイメージ。奄美の空にはこんなに飛行機が飛ぶことはいりませんから。今まで役場の人は

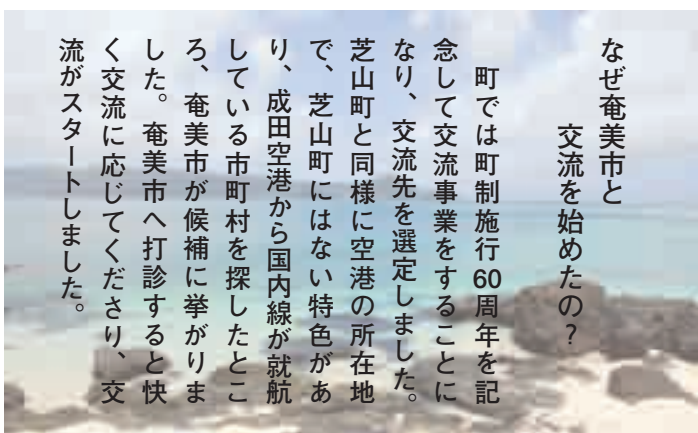
話をしましたが、町民の方と話すのは今日が初めてです。話しやすく、親しみやすいですね。

—奄美市のPRをお願いします。

奄美市は鹿児島県南方の海上に浮かぶ奄美群島の主要都市で、豊かな自然と独特の文化が根付く場所です。島の素晴らしい自然を後世へ残すため、平成29年の「世界自然遺産」登録を目指しています。皆さんもぜひ雄大な自然を見に来てください。



上：奄美市のブースには黒糖焼酎など奄美の名産がいっぱい  
左：インタビューに応じてくれた奄美市役所商工観光部総観光課の富啓嗣さん  
下：奄美の美しい海



### なぜ奄美市と

#### 交流を始めたの？

町では町制施行60周年を記念して交流事業をすることに。交流先を選定しました。芝山町と同様に空港の所在地で、芝山町にはない特色があり、成田空港から国内線が就航している市町村を探したところ、奄美市が候補に挙がりました。奄美市へ打診すると快く交流に応じてくださり、交流がスタートしました。

## 町制60周年記念 はにわ祭第四回俳句大会



水無月句会主催の「はにわ祭俳句大会」が旧藪家で開催されました。今年には町内外から小中学生の部に797句、一般・高校生の部に736句もの応募がありました。俳誌「野火」主宰の菅野孝夫さんがその中から部門ごとに入賞作品を選び、表彰を行いました。

ここでは、小中学生の部、一般・高校生の部それぞれで優秀作品に選ばれた合計10句をご紹介します。

#### 〈芝山町長賞〉

歩幅でふ老のものさし露の原  
天然のガラスが出来た冬の池

藤田 雅夫（横芝光町）  
並木 里帆（芝山小）

#### 〈議会議長賞〉

夏雲やβ・カロチン入りの飴  
せんせいがきれいですてきあきのかぜ

伊藤 恭子（春日部市）  
山越ユリア（芝山小）

#### 〈成田空港株式会社賞〉

鳥渡る水平線と地平線  
夏の海耳にささやく貝の声

内田恵里子（加須市）  
左近 美侑（芝山小）

#### 〈教育長賞〉

先生のめがねの位置がずれている  
夕闇の空を断ち切る流れ星

越川 万尋（多古高校）  
並木 柊也（芝山中）

#### 〈公民館長賞〉

どうしても解けない君の方程式  
コスモスと記憶の中の祖父母の手

平山 友貴（多古高校）  
齊藤 雛緒（芝山中）



# ARでよみがえる 発掘当時の姿

—殿塚・姫塚のAR実証実験—

はにわ祭で古代人が降臨する舞台となる殿塚・姫塚。昭和31年、早稲田大学が発掘調査を行い、多くの学術的発見がありました。その際に残された写真と、木更津工業高等専門学校によるAR（※）の技術を使い、「現在の殿塚・姫塚で発掘当時の写真を見る」という新たな試みが始まりました。同校の齋藤康之さんに詳しい話を伺います。

—なぜ芝山町の殿塚・姫塚でARを始めることに？

平成25年の夏に、町の教育委員会の方と早稲田大学大学院の鈴木徳彦さん（当時）から木更津工業高等専門学校に技術相談がありました。それは「殿塚・姫塚発掘時の写真を使ってARをやりたい」というものでした。

昭和31年に殿塚・姫塚の発掘が早稲田大学によって行われました。その時に撮影された写真が2,000点以上残されており、鈴木さんの調査によってどの位置で撮影された写真なのか特定されていきました。そこで、ARの技術を使い、当時撮影された場所で写真を見られるようにしたい、というお話でした。とても面白そうな話だったので、歴史の専門家でも何でもない私が事業に関わることになりました。

当校の学生がARのアプリケーションを作成し、昨年のはにわ祭で初めての実証実験を行いました。写真が撮影された場所にパネルを設置し、ARのアプリケーションがインストールされた端末でパネルを写すと、発掘時の写真と説明文が見られるようになりました。しかし実験が遅いと写真と説明文の切り替えが遅いという意見が挙げられました。問題点を改善したので、現在行っている実証実験

ではスムーズに写真と説明文が見られます。

—ARを使うことでどのような効果が期待できますか？

当時の写真を現場で見ることによって、発掘当時の様子がとても良く理解できます。他の遺跡でも発掘当時の写真は残っていますが、撮影した位置が分かっています。発掘当時の撮影位置が分かっている殿塚・姫塚の写真ははとて貴重なものであり、ARを使って当時の様子を実際の現場で確認できるのは、他の遺跡にはできないことです。

また、現在では殿塚・姫塚のことをよく知らない町民の方もいると聞いています。殿塚・姫塚を知るための歴史教材として活用するのにも、とても良いことです。

—将来はこの技術をどのようにしていきたいですか？

現在はパネルを端末に写すと写真が見られますが、風景を写すだけで写真が見られるようにしたいですね。GPSを使い、矢印で場所を案内することも良いと思います。技術的には可能なので、実現できたら面白いですね。

※「AR」とは？

拡張現実（Augmented Reality）という意味。現実空間を撮影したカメラ映像に、CGや写真などを重ねて表示する技術。

AR用のパネルは常設してあります。実証実験の詳細やARアプリケーションのダウンロードは、芝山町立芝山古墳・はにわ博物館のホームページをご覧ください。



木更津工業高等専門学校  
情報工学科 准教授

齋藤 康之さん